

現在設計中の2×4CAD

金物工法に 2×4の小屋組を提案

ネットイーグル加工する。これだと欠損が多くなるケースがあるが、もともと隅谷木を加工する2×4ならこの心配がないというわけだ。

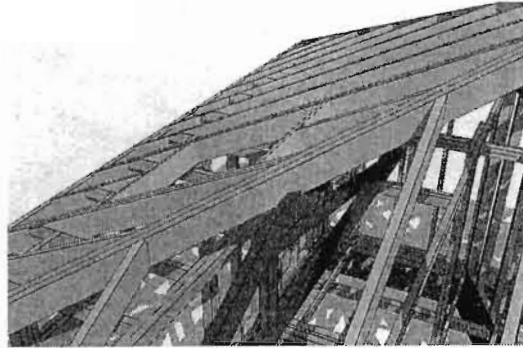
当初は小屋組だけ大工に頼る形で取り入れられていたが、スパン設備投資も不要なため、対応するプレカット社も増えている。実際、同社のシステムを導入し、4月から2×4プレカットに本格参入するげせんプレカット事業協同組合(岩手県住田町)では杉を原料に使ったディメンションランバーの2×4材による2×4住宅の供給を計画している。

提案の幅も広がる。材料の規格化、標準化が図れる点も2×4の利点という。「小屋組だけを例に挙げても軸組では工務店や大工によって要求される断面寸法が異なるが、2×4ならひとつに統一でき、在庫管理が容易になる。もともと2×4と金物工法は設計レベルが明確な点で相性が良く、採用が広がっている。

ネットイーグル

2×4の小屋組設計を木造軸組に取り入れた際のニーズを受けて開発されただけに、この分野の対応力には圧倒的な強みがある。

特に合理的なのが金物工法。通常、寄棟屋根を作る場合、在来工法では隅木、谷木の欠き加工を桁、梁側に施す(隅谷木欠)が、接合部が柱勝ちになる金物工法では隅谷木側を



2×4CADの3次元画像(画像は2×4住宅)

表もルールも明確な2×4なら初めてのプレカット会社でも取り組みやすいのに加え、CAD/CAMなら木拾い積算から加工まで全自動。羽柄材加工機を保有していれば新たな設備投資も不要なため、対応するプレカット社も増えている。実際、同社のシステムを導入し、4月から2×4プレカットに本格参入するげせんプレカット事業協同組合(岩手県住田町)では杉を原料に使ったディメンションランバーの2×4材による2×4住宅の供給を計画している。

ジャパン建材

ジャパン建材(東京都、野島新人社長)は、カナダ産SPF2×4製材を在来木造住宅用部材向けに本格的な需要開発を開始する。同社は商材用及び傘下の2×4コンポーネント工場向けで月間5000立方

全国営業所網を通じ、ビルダー、プレカット工場などに向けて提案営業していく。

同社の石崎晶弘木材部長は、「まず屋根タタキを焼かれ、しかも4面鉋がけされた製材として、は比類なき価格競争力がある」と指摘。また、削減にならざるを得ない。特に、材とサイ



在来工法の垂木を2×4材で

5000立方

ルキから提案している。既存の在来製材に比べ、変更は必須だが、既存の当該製材面木口断面が大きく、断

SPFの優位性をビルダー

屋根部位から

在来と2×4の長所生かす